

令和3年度 西東京市立柳沢小学校 学校評価報告書

学校教育目標

思いやりのある子 深く考える子 きたえる子 行動する子

目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 児童が「分かる喜び・できる喜び」を味わえる学校 保護者が安心できる学校 地域が誇りに思う学校
- 【目指す児童・生徒像】 「よく学び よく遊び よく食べる」をキーワードとし、「知・徳・体」の調和のとれた生きる力をもつ子
- 【目指す教師像】 笑顔あふれる教師 児童の状況をしっかりと把握する教師 把握したことを踏まえた授業や指導を確実にを行う教師 児童の満足する姿に喜びをもつ教師

前年度までの学校経営上の成果と課題

これまで高学年における各種学力調査は、全国や都の平均値を大幅に上回っていた。しかし、「東京ベーシック・ドリル」の正答率や満点率は、学年が下がるにつれて、下がり気味の傾向にある。算数科における基礎基本の技能を全児童に習得させることが急務である。また、望ましい学習規律が身に付いていない児童に正しい姿や態度を確立させることも早急に解決しなければならない。

	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		学校関係者評価	課題と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標		
確かな学力の向上	授業中、授業者や発表する友達の話をしっかりと聞かせる。	4	4	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、今年度も授業を展開している。その結果、かなり私語が減り、人の話を理解しようとする態度が身に付いている。今後は、聞く姿勢にもこだわり、学力の向上につなげていく。	4	4	都立高校でもオンライン授業を取り入れている。小学生には一人一人タブレット型PCを配付しており、よいことである。高校生とは違い、小学生は保護者のご理解とご協力が重要だったと思う。「校長検定」を楽しみにしている子が多いのが分かる。目標が明確であることがよい。	通常授業の際の望ましい授業の受け方に関しては、児童は身に付けている。しかし、9月のオンライン授業では、どのような気持ちや姿勢で学習に取り組んでいるのかを把握することが困難だった。いかに子どもの心を引きつける授業内容にしていけるかが今後の重要な課題である。
	全児童が、算数科における該当学年の「知識・技能」を確実に習得することができる。	4	3	昨年度は、「計算力」に特化した。今年度は、「知識・技能」の習得と枠を広げた。診断テストの全学年における平均正答率は88%だった。「思考力・判断力・表現力」の育成には、圧倒的な「知識・技能」の習得が欠かせない。今後も、個に応じたきめ細かい授業を展開していく。	4	3	「校長検定」を楽しみにしている子が多いのが分かる。目標が明確であることがよい。	新型コロナウイルスの感染拡大によるオンライン授業を9月に実施した。学習を止めないことはできた。しかし、通常授業時における机間巡回の際の指導等、学習の定着が遅れがちな児童へのきめ細かい指導をすることが困難だった。10月以降、それを取り戻すことに努めた。平均正答率は85%であった。数値を落とさない授業のあり方を
豊かな心の育成	「相手の目を見て、一礼する挨拶」という新しい生活様式を全児童に徹底させる。	1	3	児童における肯定的評価は92%である。「100%」を目指している教員にとって、まだまだ指導が足りないと反省しているのが「努力目標」の結果に反映している。今後も教職員自らが模範となり、挨拶をしていく。そして、全児童が挨拶を当たり前できるようにする。	1	2	地域の立場から見ると、子どもたちは、きちんと挨拶してくれる。学校付近では、ほぼ100%である。1年生の見守り活動を通して、子どもたちとの交流を深めている。	児童における肯定的評価は86%である。夏休み明けのオンライン授業を1か月実施したことで、人間関係が希薄傾向にあった。教員は、「黙礼」を推奨し続けたが、まだまだ納得できるレベルには達していない。今後も根気強く指導を繰り返しながら、教職員自らが手本となるよう行動していく。
	いじめに関する調査を定期的を実施したり、日々の児童の言動の変化に気付いたりするなど、実態を把握し、組織的に対応する。	4	4	いじめのない学校を目指している。そのため、いじめの未然防止、早期発見・早期解決に努めてきた。また、「西東京あったか先生」プロジェクトとして、全教職員があつたかい心で児童に接することにより、より未然防止につながると考えている。	4	4	オンライン授業よりも対面授業のほうが、友達との会話も増え、心は育つだろう。	今年度もいじめのない学校を目指してきた。日頃の児童の様子を見取り、いつもと違った言動が見られた場合には、何かしらを疑い、適切に対応してきた。今後も未然防止や早期発見・早期解決に全力を尽くしていく。
健やかな体の育成	芝生の校庭での遊びや運動を励行し、日常的に体力の向上を図る。	2	3	新型コロナウイルス感染症対策として、児童が休み時間に校庭で遊べるのは二日に1回となっている。そのため、週に1日、学年ごとに体育館を開放することにした。しかし、コロナ前とは比較にならないほど、体を思い切り動かす時間は減少しているのを否めない。	4	3	オンライン授業期間は、学童への出席率が下がっていた。逆に、高学年の児童が遊びにきて、工夫しながら過ごしている。	今年度は、校庭の芝の養生期間に体育館のエアコン設置工事が重なり、休み時間における遊び場が大幅に縮小することになってしまった。屋上の開放等、少しでも屋外で過ごせる環境を整えた。次年度は、エアコンを設置したことで、春から夏にかけての暑い時期にも体育館で体を動かせることができるだろう。
	毎月の給食日より、日々の「食」の関する話を通して、食育を充実させ、児童が「朝ご飯」を毎日食べるように促す。	3	3	昨年度のこの時期、児童の「朝ご飯」の達成率は93%、昨年度末は95%だった。そして、今回は96%にまで上昇した。これは、保護者の協力があってこそその数値である。素晴らしいことである。今後も100%の達成を目指す。	4	3	子どもたちの様子を見ると、運動を欲している気持ちがよく伝わってくる。	今回の調査では、児童の「朝ご飯」の達成率は95%だった。100%にしたいところだが、年間を通して95%以上を維持できたことは、素晴らしいと考えている。また、今は、「黙食」のため、給食時間に食に関する指導を行うのが極めて困難である。「朝ご飯」に関しては、これまでと同様に推奨していく。
開かれた学校	保護者目線にたち、必要な情報を早急にメール配信したり、学校HPに記載したり、学年日より等で知らせたりする。	4	4	メールやHP等で情報を発信してきた。教員も学級日よりや保護者会のあり方を工夫し、児童の様子を伝えてきた。しかし、学校公開の中止が相次ぎ、児童の様子を保護者の方に「生」でご覧いただく機会を失っている。緊急事態宣言以外において、分散型の学校公開を計画し、7月に保護者に予告済みであった。	4	4	6年生の「キャリア教育」では、ゲストティーチャーを招いて話を伺う際、児童の目が輝いていたという話を聞いた。	メールやHP等での情報発信は、今年度も適切に実施してきた。また、11月には分散型ではあったが、2年ぶりに学校公開を開催し、保護者の皆様に学校での児童の様子をご覧いただくことができた。今後も市の感染症対策のもと、学校として何ができるのかを模索しながら、開かれた学校づくりを行っていく。
	地域人材を活用した授業等を各学年、年間指導計画に位置付け、確実に実施する。	3	2	7月時点の数値のため、達成率が低い。昨年度の実践を生かし、さらには新型コロナウイルス感染症を講じながら、学年全体が校外に出向いたり、企業様や地域の皆様をゲストティーチャーとしてお招きしたりしながら、児童の学習内容を深めていきたい。	3	3	子どもたちの感想文からもその思いは伝わってきた。また、ゲストティーチャーをした保護者にとってもとてもよい経験になったと聞いている。	6年生は「キャリア教育」として、多くの保護者の方をゲストティーチャーとしてお招きすることができた。また、例年お招きしていた講師の皆様も感染症対策を講じていることが可能な場合、ご来校いただくことができた。今後も、大勢の皆様積極的に声をかけ、可能な限りゲストティーチャーとして招聘し、児童の学習をより深めていく。
働き方改革	各教職員の出勤時刻に合わせた、退勤限度時刻を設定し、遵守させる。	4	1	学級数の減少に伴い、時間講師の配置時数が大幅に減少した。そのため、教員の空き時間が減り、教材研究は事務作業等をする時間帯が放課後に移行した。さらに校務支援システムの変更やGIGAスクールの準備があり、その環境に適應するまでに莫大な時間を要した。	2	1	オンライン授業に臨む、先生方の努力が見てとれる。先生方の素晴らしさがより分かった。しかし、先生方を見ていると、コロナ対応やオンライン授業の対応に追われているのが分かる。	9月・1月～2月のオンライン授業への準備や、その後の児童への補習時間の増加等、勤務時間が爆発的に増加する期間があった。そのため、3学期から、夕方の打ち合わせの回数や諸会議等を精選し、勤務時間内における教員の教材研究や事務作業の時間を増やしている。今後は、その精選方法の妥当性を見極め、継続するか等の方向性を見いだしていく。
	会議の精査や会議の適切な時間の設定、そのための提案の仕方の工夫に教職員一人一人が取り組む。	3	1	時差登校のため、職員朝会の実施が不可能なため、それを放課後に移した。そのため、元来、放課後に設定されていた諸会議の時間を圧迫している。今後は、日々の職員終会を週3回に減らし、校務支援システムを利用した伝達を全教職員が徹底できるようにする。	2	1	先生方が早く仕事を終え、退勤してほしいと願う。	